

中国 食の変革  
—輸入に頼る中国と問題点—

発表者：長田華山・小野李寛司

・目次

- ①研究背景問題意識
- ②中国の動向
- ③中国経済鈍化と裏腹に拡大する牛肉消費
- ④中国のトウモロコシ問題
- ⑤中国の食肉需要増加と日本との関係
- ⑥提案

・研究背景問題意識

世界全体の変化を思い浮かべた際、世界人口の増加と、中国をはじめとしたこれまで後進国とも言われ続けた東アジア諸国の急速な経済発展が出てくるのではないだろうか。

中でもアジア諸国の急速な経済発展は、さらなる世界変革をもたらすものであり、あらゆる課題を生み出す事になった。とりわけ食料問題においては、人口増加と富裕化によりこれまでにない需要が生れ、食料の奪い合いが世界的に発生しているのが懸念すべき点だ。

中でも急発展と食の変革が顕著に表れた中国に焦点を当て、牛肉消費拡大による問題について調査し、課題解決に結び付けたい。

・研究内容

中国における経済状況は近年鈍化傾向であるともいえる。その理由として、2014 年を境に労働人口が減少している点、農村部の高齢化などによる、人口問題と、中でも新型コロナウイルスの流行によるロックダウンの影響であろう。2022 年度末から正常化に乗り出してきたが、今後の経済の見通しは大きくは向上していないのが現状だ。

そんな中、一人当たり GDP(名目)は過去最高の 8 万 976 元となり、世界平均を上回った。富裕化と同時に、牛肉の消費も年率 20%近く高まっている。一方この変革は中国が課題とする輸入依存問題に接触しており、飼料でもあるトウモロコシの需要を引き上げ、21 年度には生産・輸入ともに消費量が過去最大を記録した。

これらは、国内の需要拡大にとどまらず、日本における飼料価格の高騰の要因にもつながった。

・提案

和牛輸出の拡大、日本をはじめとした多国籍企業と共同開発した穀物の種苗開発が、中国、世界の食料問題の解決につながると考える。